

ちゅうもん りょうりてん 注文をまちがえる料理店

◎まちがいを受け入れる社会

おぐにしろう (おぐにしろう) さんはNHK という日本のテレビ局で働いていました。彼の仕事はいろいろなテレビ番組を撮ることです。

ある日、小国さんは新しい番組を作るために、認知症のお年寄りたちが一緒に住んでいる施設へ行きました。認知症になると、記憶力が弱くなったり、家族のことが分からなくなったりします。そこでは、そんな認知症のお年寄りたちが、いろいろな人の世話を受けながら、生活していました。でも、昼食はお年寄りたちが撮るのだそうです。そして、小国さんにもごちそうしてくれると言いました。

「今日のメニューはハンバーグですよ。」と聞いた小国さんは、うれしくなりました。昼食の時間になって、小国さんはハンバーグが出てくるのを楽しみに待っていました。でも、目の前に置かれた皿の上には、ギョウザがありました。

「あれ？聞いていたメニューと違うぞ？」と小国さんは思いました。

でも、周りを見回しても、だれもびっくりしたり、文句を言ったりしている人はいませんでした。

「どうして、だれもメニューが間違っていることを言わないんだろう。」小国さんは不思議に思いました。小国さんは周りの人たちといっしょにギョウザを食べ始めました。とてもおいしいギョウザでした。食べながら、「メニューとは

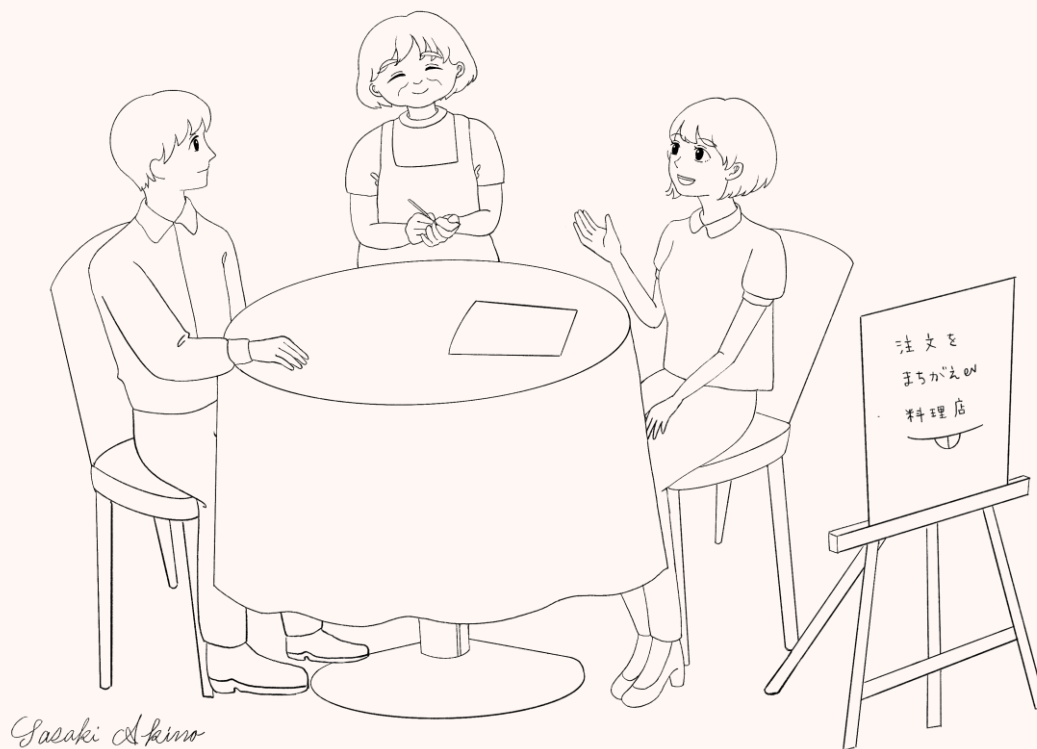
ちが 違うけど、ギョウザもおいしいな。」と^{おも}思っ^{しあわ}て、幸^きせな気^も持ちになっ^てきました。

おぐに 小国さんはもう^{いちど}まわ^{みまわ}りを見^{みまわ}回^{みまわ}しました。そこにあるのは、みんながまちがい^を受け^う入^いれて、ギョウザを^たいっ^{すてき}しょに食^けべる、素^{すてき}敵^{けしき}な景^{けしき}色^{けしき}でした。

その^{とき}時^{おぐに}、小^き国^{おぐに}さんは気^きが^うつ^いきました。「^うそう^いか！^いみんな^いが^い受^うけ^い入^いれてしま^えば、
まち^けが^{ほうほう}いはまち^けが^{ほうほう}い^けじゃ^{ほうほう}な^{ほうほう}く^{ほうほう}なる^{ほうほう}んだ。こ^うや^うっ^て、ま^ちが^いを^け消^{ほうほう}す^{ほうほう}方^{ほうほう}法^{ほうほう}が^{ほうほう}あ^るる^{ほうほう}んだ。」

この^{かんが}考^{かた}え^{おお}方^{ひと}を^{ひろ}多^くの^{おぐに}人^{ちゅうもん}に^{ちゅうもん}広^めたい。そ^して、小^{おぐに}国^{ちゅうもん}さん^{ちゅうもん}は「^{ちゅうもん}注^文を^{ちゅうもん}ま^ちが^える^{ちゅうもん}料^{りょうりてん}理^{てん}店^{りょうりてん}」^{りょうりてん}と^{りょうりてん}い^うる^{りょうりてん}レ^スス^トラ^ンを^はじ^める^こと^にし^まし^た。

◎「^{ちゅうもん}注^文を^{ちゅうもん}ま^ちが^える^{ちゅうもん}料^{りょうりてん}理^{てん}店^{りょうりてん}」^{りょうりてん}オ^ープ^ン！



(Drawn by Akino SASAKI)

「注文をまちがえる料理店」は一日だけのレストランです。その日にレストランで働くのは、全員認知症の人たちです。いつもは世話をされる認知症の人たちは、この日はテーブルで注文を聞いたり、料理をおぼんの上に並べたり、お客さんに注文の料理を届けたりします。

注文がうまくわからなくて、お客さんをお願いして書いてもらう人、料理をまちがったテーブルに運んでしまう人、いろいろな「まちがい」が起こりますが、働く人もお客さんもみんな笑顔。参加した人がみんな温かい気持ちになれる、それが「注文をまちがえる料理店」です。まちがえることを受け入れて、一緒に楽しむという新しい考え方の「注文をまちがえる料理店」は2017年6月にスタートし、今では日本中、そして世界にも広がっています。

◎認知症を知るために

ところで、認知症は病気の名前ではありません。知っている言葉や名前が思い出せない、予定や約束など大切なことが覚えられない、歩いていても、自分が今どこにいるか急にわからなくなる、といった、社会生活にいろいろな問題が出てくる状態のことを意味します。この状態の原因の一つが、有名な「アルツハイマー病」です。アルツハイマー病になると、覚えることが難しくなります。知っている場所や人、約束の時間などがわからなくなることも多いです。体が自由に動かなくなることもあります。そして、この病気はお年寄りだけでなく、若い人がかかることもあるのです。

いま 普通にやってきたことが、突然 難しくなる。今まで慣れていた世界が
急に複雑でわからないものになる。それはとても怖い経験です。そんな経験を
している人の心は不安でいっぱいです。その不安を受け止めて、一緒に生活し
ようとするやさしい社会のはじまりが、この「注文をまちがえる料理店」なの
かもしれません。

(1539字)

(2021.4 Written by Yuki MORI)

<参考資料>

- ・「注文をまちがえる料理店」ウェブサイト <http://www.mistakenorders.com/>
- ・「大学生とつくる就活応援ニュースゼミ」ウェブサイト「教えて先輩！元NHKディレクター小国士朗さん【前編】きっかけは『プロフェッショナル』」
https://www3.nhk.or.jp/news/special/news_seminar/senpai/senpai58/
- ・「まいにち doda」ウェブサイト「間違えても、ま、いっか。『注文をまちがえる料理店』で見えた、ちょっと寛容な社会の姿」
<https://mainichi.doda.jp/article/2019/01/12/1013.html>
- ・「公益社団法人認知症の人と家族の会」ウェブサイト「投稿 認知症の本人の声」
<https://www.alzheimer.or.jp/?p=4990>

(2021.5.19 ウェブサイト確認)



この作品はクリエイティブ・コモンズ 表示 - 非営利 - 継承 4.0 国際 ライセンスの下に提供されています。この
作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を出典として示してください。

例) 出典:「たどくのひろば」(<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use

this work, please indicate the source as in the example above.